

今できることを見付ける力

園長 篠澤 恵理

先月、家庭で楽しく過ごせるきっかけになればと思い、様々な教材を全園児へ送付しました。年少こりす組には、「こいのぼり」や「いちご」作りなど、少し手を加えるとすぐにできて、「自分で作ることは、楽しい。」と感じられるものを選びました。年長もり組には、絵本が作れるように紙を綴じたものや、金銀用紙・モールなどの新しい材料を入れました。これまで幼稚園で取り組んだ製作経験を生かして、「自分で工夫すると、楽しい。」と思うきっかけとなるような教材を考えました。これは、今の時期に幼稚園で育てたい「ねらい(目当て)」の一つでもあります。

送付した教材をどのように利用しているか、それぞれのご家庭に伺ったところ、子どもたちが、様々な工夫を加えて作成しているという声を聞き、大変嬉しく思いました。年長もり組の中には、金銀用紙を使用して、バッグを作成した子もいれば、同じ金紙で、絵合わせを作成した親子もいました。紙や様々な材料を前に、「こうすると、楽しいかな。」と、イメージを膨らませて考えたことが伝わってくるようです。

一方で「製作」に関心が向かない場合では、声をかけても取り組もうとしないことがあったようです。「今は、タイミングが合わない。」と捉えて、横でやって見せたり、一緒にする機会をつくったりして、別の機会に声をかけてみると、案外すんなりと応じることもあります。しかし、「製作」に限らず、子どもが関心を向けられない事をさせようとするのは、なかなか大変なことだと思います。

この様な時は、子どもが好きなことに夢中になって遊ぶ様子に、じっくり付き合ってみると、その子なりに考えている物語や関心を向けていることが見えてきます。まずは、子どもが頭の中で描いていることを一つでも見付けて、共感していくと、子どもは自分のことを分かってもらえたと感じて、今やっていることに、改めて満足します。目の前のことへの満足を意識した先に、他のことにも関心を広げる扉があるように思います。今できていないことを嘆く前に、今できていることを見付けて、一緒に喜ぶことが大切です。

保護者の方々とお話をする中で、「家にあった板を利用して、自宅の室内に滑り台を作成した。」という方や、「おやつ作りを楽しんでいる。」という方など、日々工夫して過ごしていることが伝わってきました。ずっと家庭で過ごす大変さを感じながらも、家族の愛情で子どもとの生活を工夫して楽しんでいることは、心の中に温かな光景として残って充電され、豊かな心のエネルギーとなることと思います。

臨時休業期間中、ふくろ幼稚園の教員たちは、子どもたちの顔を思い浮かべながら、第2回目の教材送付に向けた準備をしてきました。送付したものをきっかけに、何か一つでも関心の扉を開けて、自分で手を動かしたり考えたりすることが楽しいと感じ、新しいことに取り組もうとする意欲が育っていくことを願っています。また、夏野菜や季節の花々を植えられるように、幼稚園の畑を耕し、園再開の日を楽しみに待てるために準備をしました。さらに、近日中に限定公開できるような動画配信も計画しています。絵本の貸し出しも、3つの密(密閉・密集・密接)を避けることに気を配りながら、引き続き実施します。これまでにない厳しい状況の中ですが、私たち大人が知恵を出し合い、困難に負けないたくましさを示していかれるよう、今できることを精一杯見付けていく力が試されていると感じます。ご家庭でご心配なことがありましたら、遠慮なく幼稚園にお申し出ください。今後幼稚園からも、お電話で皆様の様子を伺います。一緒にこの難局を乗り越えていきましょう。

